

埋蔵文化財調査室ニューズレター

特集 「北大式」

北大式土器とは、紀元5世紀から7世紀にかけて、北海道から東北地方北部にかけて、時期によっては分布圏を多少伸縮させながらも広がっていた土器型式です。「土器型式」とは、ある時期・地域に特徴的に認められる土器のまとまりのことです。そうした土器型式の設定にあたっては、該当する資料がまとまってはじめて確認された遺跡名をとってその名称が付けられます。北大式土器は、最初に北大構内から発見されたものを示準資料として設定されたために、この名称が付けられました。大学名が土器型式の名称に用いられることは全国的にも(おそらく世界的にも)例がないことです。

北大式土器は、時間的には、古墳文化の中期から後期に併行します。この時期、東北地方の中部まで、前方後円墳に象徴される「古墳文化の政治圏」が伸張してきていました。その中で、それらの地域の人々と活発な交易活動を展開し、接触を頻繁に繰り返しながらも、依然として異質な文化伝統を維持し続けようとした人々が主に残したのが北大式土器です。古代の文献史料などで「蝦夷(えみし)」と呼ばれた人々とも関連性があるのではないかと考えられています。東北日本の古代史を考えるうえで、北大式土器は非常に大きな意味を持っていることがわかるでしょう。

本特集では、北大式土器について紹介していきます。



▲K39遺跡工学部共用実験研究棟地点から発見された北大式土器（深鉢）

平成20年度に本発掘調査が実施された工学部共用実験研究棟地点では、5世紀中葉から6世紀前葉にかけての北大式土器がまとめて発見されました。本地点は、炉址や土坑などが多数残されている、この時期の大規模な活動拠点です。ここで発見された土器の器種(=種類)には、深鉢、鉢、坏、片口、注口があります。それぞれ完形に近い状態にまで復元できる土器が数多く見つかっており、器形や文様の詳しい検討が可能となっています。

河野広道博士と北大式土器

北大の構内から見つかった土器を示準資料として北大式土器を提唱したのは河野広道博士です。

河野博士は、1905年(明治38年)に生まれ、北海道帝国大学農学部で昆虫学を学び、27歳で農学博士を授与されました。フィールドでの昆虫採集を重視し、分類学だけでなく生態的な要素を含めた昆虫学を目指し、食用・薬用昆虫、アイヌの昆虫名、アイヌの毒矢と昆虫、北海道の害虫文化史などに、独創的な研究実績を残していきます。その後、研究分野は考古学にも広がり、北海道各地で発掘調査をおこなうようになります。北海道新聞社北方研究室長や北海道学芸大学札幌校(現北海道教育大学札幌校)教授を務め、1963年(昭和38年)に58歳で亡くなります。

博士が北海道の先史土器を体系的にまとめた「北海道の土器」『郷土の科学』23号(1959年)のなかで、「縄文土器から擦文式への移行期の形式」として「札幌市北海道大学校庭から出土したものを模式標本として北大式」が提唱されました。残念ながら、設定の際に用いられた資料が構内のどこから出土したのかについては記述がなく、手がかりが残されてはいませんが、続縄文文化後半の土器型式として北大式土器は現在でも一般的に使われ続けられており、その位置づけは東北日本の古代史研究において重要な争点となっています。



▲ 河野広道博士(『河野広道博士没後二十年記念論文集』1984年)より

【お知らせ】平成23年度における埋蔵文化財調査室の調査・行事予定

詳細な実施日程・内容については、調査室のホームページあるいは北海道大学のホームページを通じてお知らせ致します。

- ① 医学部陽子線研究施設工事予定地(歯学部病院の北側)での発掘調査(4月から)
本発掘では地表下約 0.7m の深さから擦文文化の堅穴住居址の発見が予測されています。調査期間中には、調査室員が調査現場で調査成果を解説する現地説明会も実施する予定です。
- ② 遺跡トレイルウォーク(予定：7月・10月の2回)
調査室員の引率・説明のもと、一般市民を対象に2時間程で構内の遺跡をめぐり歩きます。
- ③ 調査成果報告会(予定：2月 会場：北大学術交流会館)
平成23年度に実施した調査研究の成果について一般市民を対象とした報告会を開催します。
- ④ ニュースレターの刊行(予定：7月・11月・3月の3回)
毎号、北大構内の遺跡にかかわる特集と調査室からのお知らせで誌面を構成します。
- ⑤ 報告書『北大構内の遺跡XIX』の刊行(予定：3月)
発掘調査成果についての年次報告

【お知らせ】『調査成果報告会要旨集』の残部を希望者の方に頒布いたします

平成23年2月13日、北海道大学学術交流会館にて、第4回北海道大学埋蔵文化財調査室調査成果報告会がおこなわれました。その際に刊行し配布した要旨集の残部がまだ若干あります。残部の範囲内で頒布いたしますので、ご希望の方は下記の連絡先までご照会下さい。



▲ 刊行した要旨集

編集後記

北大式土器が多量に出土した工学部共用実験研究棟地点での発掘調査から報告書作成にいたる過程にたずさわったことで、あらためて北大式土器にかかわるさまざまな課題を考え直すようになりました。本地点から出土した土器をさらに詳しく研究していくことで、当時の北海道と東北地方との関係の様相を具体的に明らかにしていくことができるでしょう(高倉)。

北海道大学埋蔵文化財調査室ニュースレター 第11号

発行 : 北海道大学埋蔵文化財調査室
〒060-0811 札幌市北区北11条西7丁目

電話 : 011-706-2671 FAX : 011-706-2094

e-mail : jun-ta@let.hokudai.ac.jp

URL : <http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~q16697/maibun/index.html>